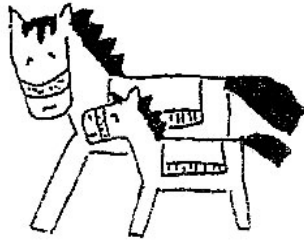


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポッキリ、ポッキリと

30年 5月 NO.282



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

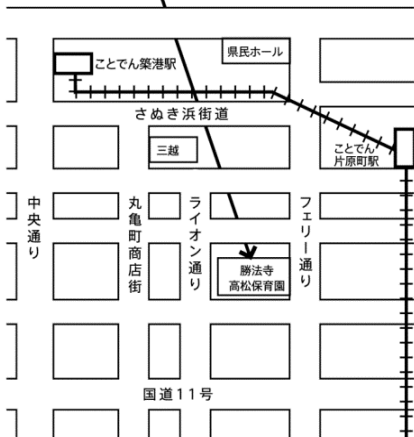
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		5月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
5月12日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
5月19日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	子育てに役立つ画用紙シアター (大きく広がる絵本)をつくります。 どなたでもどうぞ。
5月24日	木	香川みずぶさんの会 14:00～16:00	長岡三重子氏の「101才のマスターズ 水泳・世界記録スイマー」のDVDを みんなでみて、元気をもらいます。
5月25日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師(小児科医)にゆっくり 相談できます。(予約要)
5月25日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「はるのおでかけ!」をテーマに 手あそびやパネルシアターなど 楽しいことがいっぱいです。
5月26日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て 体験においで下さい。

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して  
いますので、親子でご来園下さい。  
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00  
しつけや子育てについての悩み、保育園生活  
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集  
「空のかあさま・下」  
JULA出版局

夢夢夢  
ののの  
ないない  
ときとき  
ややや  
なわど  
いからこ  
ゆらに  
えな  
に

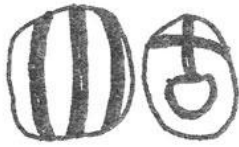
夢昼そ  
かも  
から  
夢  
を  
飛  
ん  
で  
渡  
る  
の  
の  
の

夢一  
か  
寸  
法  
師  
を  
は  
飛  
ん  
が  
こ  
で  
か  
に  
渡  
る  
い  
る  
い  
る

夢  
か  
ら  
夢  
を



☆今月の内容—「西アフリカで起きている危機(ユニセフの報告書より)」



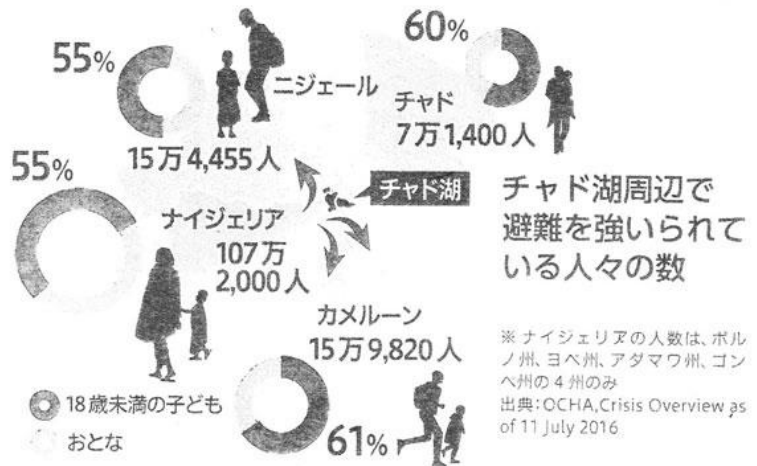
# ともに生きる



西アフリカ・チャド湖周辺で起きている危機の中で

～ユニセフ移民・難民に関する報告書より～

ユニセフは昨年8月、報告書『移動を迫られた子どもたち、置き去りにされた子どもたち』を発表し、ナイジェリアを拠点とする武装勢力のボコ・ハラムによる暴力によって、ますます悪化しているチャド湖一帯の人道危機を伝えました。暴力や混乱を逃れて避難を強いられている260万人のうち、140万人は世界で最も貧しいとされる子どもたちです。避難を余儀なくされている人々に加え、ボコ・ハラムの支配地域で身動きがとれなくなっている恐れがある人々は、およそ220万人いるとみられます。



かつてサヘル地域で最大の水源であったチャド湖は、降水量の減少などで砂漠化が進み、今や10分の1の面積にまで干上っています。気温変動と貧困の連鎖で一帯は食料難に陥り、重度の急性栄養不良に陥る子どもが急増、その数は47万5000人に達するとみられます。

2013年移行、この地域一帯では政府軍と武装勢力の対立が激化。性的暴力や武装勢力への強制的な徴用、自爆攻撃への利用など、子どもをターゲットとした痛ましい非人道的な行為が横行しています。2014年4月、世界に衝撃が広がった、ナイジェリア北東部のチボックの町で起きた270人の少女の大量拉致事件も一連の暴力行為のひとつですが、いまだ解決に至っていません。

故郷からの非難を余儀なくされ、家族と別離したり、家を失ったり、教育の機会を奪われたりなど、子どもたちへの影響はあまりにも悲惨なものとなっています。

暴力を逃れ、国境を越えてもなお恐怖と不安に怯えて生きる子どもたちが願うのは、ふつうの暮らし。それは決して誰にも奪われてはならないはずのものです。

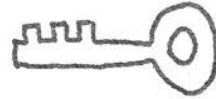


## 隣国の親友

ナイジェリア出身のガルバさんは16歳。住民の多くが漁業で働くチャド湖畔の村で家族と静かに暮らしていました。しかし、ある日突然、生活は一変しました。ボコ・ハラムが村の若者たちを誘拐し始めたのです。「友人の多くは失踪したまま、今も誰ひとり戻ってきていないのです」とガルバさんは訴えます。

2015年夏、ボコ・ハラムが勢力を増す中、ガルバさんは家族と一緒に丸木舟に乗って、湖を隔てた隣国チャドへ逃れました。チャド湖畔に到着すると、ガルバさんは近くの村に住む15歳のイラさんに出会いました。「同じフラニ語を話すぼくらはすぐに友達になったんだ」とイラさんは笑みを浮かべます。

チャド湖畔へ避難したナイジェリア出身の難民の子どものうち8割以上は、学校に通ったことはありません。「ナイジェリアにいた時は、お父さんの漁業の手伝いをしていて、学校に通うだなんて考えたこともなかったんだ」とガルバさんは言います。



## ぼくたちの夢

しかし、2016年2月、このチャドも恐ろしい出来事に見舞われます。イラさんの村もボコ・ハラムに襲撃され、村長を含む多くの住民が殺されたのです。「ナイジェリアに何もかも置いてきて、ここで人生をやり直そうとしていたのに…。ぼくたちは何も間違ったことをしていないのに、こんなこと不公平だ!」と、ガルバさんは怒りを込めて言います。

幸い襲撃を逃れたイラさんとガルバさん。二人は偶然にも同じダルエスサラーム難民キャンプで再会しました。子どもっぽくシャイなガルバさんとサッカーが大好きなイラさん。二人はここで当たり前の日常を取り戻したいと願っています。「もうナイジェリアには戻らないよ。ここで学校に通い続けたいんだ。前はお父さんの仕事を継ぐことしか考えていなかったけど、本当に家族を助けたいなら、もっと先のことまで考えなければいけないと思っているよ」とガルバさん。そして、肩を組んだ二人はこう言います。「ぼくらは、学校を卒業して、いつか立派な人間になるって約束したんだ!」

## 奪われた平穏な日常

以前、カメルーンとナイジェリアの国境付近の小さな町で仕立て屋をしていたジョナサンさんも、難民キャンプで暮らす一人です。「うちの店には22人の仕立て師が働いていました。生地が良く、地元では評判だったんですよ。でもある日、うちの店を酷評するビラが町中にばらまかれたのです。」

そのビラにはボコ・ハラムのサインがありました。それで身の危険を感じて、チャドへ逃げてきたのです」

### ミシンから少女たちが紡ぐ未来

現在、ジョナサンさんは難民キャンプで、若者たちに裁縫技術を教えています。若者たちが学習やスポーツができる施設にもなっている「子どもにやさしい空間」では、女の子たちがカラフルなマットの上で輪になり、ジョナサンさんの指導を受けながら、ミシンを使って裁縫を学んでいます。女の子たちは作業に集中しつつも時には楽しいおしゃべりを挟み、テントは和やかな雰囲気になっています。ここで裁縫を学ぶ生徒のひとり、15歳のマイモウナさんは、「ここに来ると辛いことを忘れられるの。このズボンは弟にあげるの。もうすぐ結婚する友だちにはこのドレスをプレゼントするのよ」と言います。



### 若者たちの力を信じて

教えることは自分にできる最低限のこと、若者たちが技術を身に付けて将来生計を立てる一助になれば、とジョナサンさんは言います。「ここは子どもたちが将来について考える場所なのです。もしかしたら将来、彼女たちの誰かが、有名なファッションデザイナーになるかもしれませんよ。オリンピックにも難民の選手が出場したと聞きましたから。私はこの子たちの力を信じているのです」

同じ言葉を話し、お互いをよく知っている地元の人々同士の助け合いは、こうした状況で一番心強いものかもしれません。この難民危機で特徴的なのは、チャド湖周辺で暴力から逃れている10人に8人が難民キャンプではなく、親戚や友人などの元へ身を寄せているということです。しかし、受け入れ先のコミュニティでさえも干ばつや洪水などの被害に相次いで見舞われる中、多くの人々は狭い住居や僅かな食料を分け合いながら、この危機に向かっています。

昨年9月に開かれた難民と移民に関する国際サミットに先がけてユニセフが発表した報告書『ふるさとを奪われた子どもたち：拡大する難民・移民危機』によると、ふるさとを奪われた子どもたちは世界で5000万人、そのうち家を追われた子どもたちは2800万人にのぼります。子どもたちが一度しかない子ども時代を取り戻し、持って生まれた能力を最大限発揮できるよう、基礎的な保健サービスや安全な水の提供、栄養不良の治療など息の長い支援が求められています。



「ユニセフ・ニュース」より